

eラーニングを用いた日本文化学習に関する研究： タイの大学における「日本事情」を事例に

吉嶺，加奈子

<https://hdl.handle.net/2324/2198523>

出版情報：九州大学，2018，博士（学術），課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）



氏 名	吉嶺 加奈子			
論 文 名	e ラーニングを用いた日本文化学習に関する研究 ータイの大学における「日本事情」を事例にー			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	松永 典子
	副 査	九州大学	准教授	志水 俊広
	副 査	九州大学	教授	郭 俊海
	副 査	九州大学	准教授	内田 諭
	副 査	九州大学	准教授	山田 政寛

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は海外における日本文化を学習する科目「日本事情」が抱える諸問題を e ラーニングにより解決を図る実証研究である。日本国内の「日本事情」が他者とのコミュニケーションを通じた文化の捉え直しを目的としているのに対し、海外においては「日本事情」の定義や指導法等の明確な指針がない。日系企業就職にあたっては日本語だけでなく日本文化理解が求められているものの、従来の研究ではビジネスコミュニケーションを円滑にするための日本文化学習とはどのようなものかは明らかになっていない。そこで、本論文では教材・教師不足を補うべく e ラーニングが試行されてきたタイの大学を事例に、新たに e ラーニングを用いた「日本事情」授業を設計・開発し、その効果を検証することにより、海外の日本文化学習においてはどのような授業設計が求められるのか、e ラーニングによる日本文化学習はタイ人日本語学習者にいかなる学習成果をもたらすのかを考察している。

本論文は六章で構成される。一章は序論、二章で先行研究及び課題、方法論が述べられる。三章で課題解決のための調査、四章と五章で開発した教材を用いた授業による課題の分析・考察、六章では総合考察がなされ、結論と今後の課題が示される。

考察の結果、タイ人日本語学習者・日本語教師・日系企業への調査からは身近な日本文化のほか日本社会に関する学習が求められていることがわかった。このため、それらのニーズを反映した e ラーニング教材を開発し、その教材による学習成果を検証するため「討論」型と「読解」型の授業設計に基づく対面授業を実施した。その結果、タイ人日本語学習者にもたらされた変化として、「討論型」のほうに学習ストラテジー使用の増加が見られ、特に記憶ストラテジーとメタ認知ストラテジーが多用されることが分かった。また、聴解能力の向上や日本文化に基づく態度表出といった学習成果も「討論型」のほうに多く見られた。日系企業に対する調査からは、対面授業でタイ人日本語学習者にもたらされた学習成果はビジネス上の任務遂行に必要な能力であることが判明した一方で、学習成果を点数で具体的に示す必要性が生じたことから、パフォーマンス評価を行うための「日本事情」CAN-DO を作成した。以上のことから、ビジネスコミュニケーションに資する日本文化学習は、自宅学習で e ラーニングにより文化理解を促し、対面授業では意見交換を行った後にパフォーマンス評価を行う「討論」型の授業によりもたらされる可能性が高いことが示唆された。

以上のように、本論文は、海外における日本文化学習について、日本文化の理解に焦点を当て、コースデザインから教材開発、指導法、評価法に至るまでトータルで見直し、検証を通してビジネ

スコミュニケーションに資する日本文化学習モデルを提案した。この点が従来の「日本事情」やビジネス日本語教育に関する研究では見られなかった新たな知見となっている。このうち、特に極めて変化させることが困難とされる記憶ストラテジーとメタ認知ストラテジー向上に寄与する教材を開発した方法論が教育工学分野における特筆されるべき独自の成果として高い評価を得た。本研究の知見は、他の同様の課題を抱える海外における日本文化学習やeラーニング教育に関する研究においても貢献をなし得るものとして、博士（学術）に値する価値ある業績であると判断された。